

午後2時16分再開

○議長（中島秀樹君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、11番柴山恭子議員の質問を許可します。11番柴山恭子議員。

（11番柴山恭子君登壇）

○11番（柴山恭子君） 皆さんこんにちは。私は、7月5日、九州北部災害におきまして、天皇皇后両陛下の「頑張ってください」のお見舞いの言葉、とてもありがたかったです。災害後、すぐに視察に見えた総理、国会議員、知事、県議団の皆様、全国から駆けつけられた消防車両、県市町村からの支援、自衛隊、ボランティア、消防団、警察、ダム管理所、職員、多くの皆様の頑張りに心よりお礼を申し上げます。ありがとうございます。

7月5日の豪雨は、線状降水帯が発生、激しい雨が降り、ため池や川の決壊による多くの命が奪われ、家屋、田畑の被害は甚大でありました。三連水車裏手の田畑や用水路の流木、長年、アユや川魚を商いとし、頑張ってきた施設は流され、お菓子の工場も大きな被害を受けました。朝倉特産の万能ネギのハウスがやられてしまい、老いた御夫婦が2人で黙々と片づけられているのを見ると、余りのことに2トンで土砂運びながらも声をかけることもできませんでした。杷木松末小学校豪雨記録では11時間で409ミリ、19時以降は観測不能となり、赤谷川、寒水川、乙石川、北川、白木谷川、小河内川、それぞれの川は家屋を押し流し、田畑の区別のつかない川幅となり、水の怖さを思い知らされました。

松末小学校の体育館の大量の土砂、子どもたちはとても怖い思いをしたでしょう。中島さんの90を超すおばあちゃんは裏山の竹やぶの中に逃げ、雨の中、1人でじっとしておられたそうです。

私は、建築士とチームを組んだボランティアで土のかき出しの最中でも、隣の倉庫が音を立てて壊れていきました。設計士ということもあり、今後、愛着のあるこの家をどうすべきなどの相談を受けながらも、私たちは判断をすることができませんでした。

今後、復旧復興に向けての取り組みとともに、朝倉市の防災業務や地域コミュニティの自主防災組織、コミュニティと防災本部との適切な情報伝達、それらは機能することができたのか、多くのことを検討に検討を重ねていく必要があるでしょう。この災害にどう取り組み、災害に強いまちづくりを推し進めていくか、基本計画をしっかりと立て、全国のモデルとなるまちづくりを策定し、発信すべきと考えます。

以後、質問席より質問をいたします。

（11番柴山恭子君降壇）

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） これは、とても大切なことですので、市長にお伺いいたします。

市長は、これまで日本一のふるさとづくりをビジョンとし、地域内での働く場づくり、医療費就学前無料、小学生の医療費助成の充実、小中学校にエアコンの設置による教育環境の改善、ワンストップ窓口など、人口に歯どめをかけ、親、子、孫と一緒に暮らせる朝

倉市づくりに全力で取り組んでこられました。

しかし、2年ほど前、消滅都市として朝倉市は報道されました。少子化の中、過疎化が進む地域もあろう。しかし、立石に住んでいると若者の家が建ち、小学校も教室が足りない。よもや消滅するわけではない。ただ、コンパクトなまちづくりが進むだろうと思っていました。

7月5日、北部豪雨災害は、日本中に、毎日朝倉市の災害の様子が報道され、有名になりました。これまで、朝倉の自然のすばらしさや人柄のよさにみせられ、移住された方々、計画を進めながらも一歩のところで流され、断念せざるを得なかった人、被害に遭われた地域の皆さんの今後の生活再建、優良農地の崩壊、ハウス施設の再建など、多くの課題を抱え、市長はこれまでの経験や実績、人脈などを生かし、復旧復興に懸命に取り組んでおられます。富田議員はあんなふうに言われましたが、私はとても頑張っておられると感じておりました。

例えば、今回の豪雨を受けて、12月1日、国では赤谷川や桂川を初めとする災害復旧事業が採択され、一千数百億円の投資を行い、河川の整備を行うことになっています。とても大きな事業です。でも、そのほかにも、これは認められなかった大福幼稚園の支援も行われるようです。私は、短い期間によくぞここまで頑張られたと思います。

住民、行政、議会、オール朝倉で、総力を挙げて、ことしも入れて5年間で再度、災害防止の軽減を行わなければなりません。5年の中に何としてもオール朝倉で頑張りを続けなければならないのです。今後、この災害を検証し、乗り越え、全国に発信できる災害に強いまちづくりを推し進めなければ、消滅都市朝倉は現実となりかねません。

お尋ねします。財政に非常に厳しい状況の中、市長、2期8年間、豪雨災害から5カ月、これまでの経験が無駄にせず、皆様からいただいた力を復旧復興の力とし、何としても災害に強い朝倉市のまちづくりを推し進めるために市長の力を必要とします。来年4月の市長選、どうされますか、お答え願います。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、柴山議員から今回の災害の経過等の話がございました。私も災害発生当時からのことを思い出しながら、この5カ月間というものを考えておりました。そこで、来年の4月の市長選挙はどうするのかという御質問であります。市長就任以来、2期7年8カ月、9カ月になります。その間、就任当初より日本一のふるさとづくりということで、親と子と孫と一緒にこの朝倉市で暮らすことができるような市を目指そうということで、2期目は1期目の事業を継承しながら、この朝倉市、朝倉という地域を責任を持って次の世代に引き継ぐために今日まで市長として私なりに努力をしたつもりであります。

また、先ほど話がございましたように、これは日本全国の問題として、あるいは日本の地方と言われる地域の問題として人口減少の問題が大きくクローズアップされました。残

念ながら、本朝倉市も消滅可能都市、ただし、何もしなければということであろうというふうには私は考えています。いわゆる、朝倉市の人口ビジョンをつくり、そして、人口減少に歯どめをかけるための総合計画を作成いたして、それにのっとり今後の朝倉市政を進めようと、そうした矢先に、本年7月に九州北部豪雨災害に遭いました。朝倉市は、これまでに経験したことがないような災害に見舞われ、7月5日から6日にかけて、いわゆる観測史上最多の降雨量を記録いたしまして、市内全域に甚大な被害が発生いたしました。私どもは、よく行き、見かけておった景色が見るも無残な景色に変わりました。そして、多くの方が被災し、住むところを失い、あるいは自分の生活の基盤である農地、あるいは自分の事業所もやられるということで、朝倉市の産業全てに大きな被害をもたらしております。

今回の災害は、ただの水害というのみだけでなく、水と土砂と流木が一気に押し寄せてくるということ。あるいは、桂川流域では水が氾濫し、堤防が至るところで決壊し、多くの浸水家屋が出ました。そういったことに対して、国、県、そして他自治体の皆さん、そして全国の多くの皆さんの支援をいただき、私たちもこれを励みに、必ずもとの朝倉、そしてもとよりもっと安全に住民の人たちが暮らせる朝倉を取り戻さなきゃなんんという思いで、今はいっぱいあります。

あわせて、先ほど申しましたように、人口減少対策はもちろんでありますけども、今日まで朝倉市でもろもろの事業を計画をしておりました。その事業についても、恐らくあるものは見直しをして延期をする。あるいは中止をする、そういった判断も必要になることと思います。もちろん、これには市民の皆さん方の理解を得た上でということでもあります。

そして今申し上げました災害につきますと、いわゆる復旧復興というもの、これがやはり今3月末までに、いわゆる復興計画をつくります。もちろんこれは被災した住民の考え方、思いというものを十分その中に反映した形でつくり上げようと、考えております。

しかし、3月には、まだ復興計画ができたばかりであります。やはり、私は先ほど申し上げましたもろもろの仕事を今後も続けたい、続けなければならないという思いであります。

したがって、来年の4月の市長選挙には立候補させていただきたいという思いであります。そして、市民の多くの皆さんの御理解を得て、再度市政を担当したならば、先ほど申し上げましたようなことを着実に進めてまいりたいというふうに思っております。

きょうの朝の大庭議員の質問のときにも答えましたように、今、10年先を見た復興計画をつくろうとしております。多くの被災された方は高齢者です。「10年も俺はおらんばい」と言う人もいらっしゃいます。私もわかりません。もう65ですから、10年先は75です。しかし、今、被災した人たちのために復興復旧をやると、それも当然でありますけれども、やはり私たちは次の世代、次にこの朝倉で生活する次の世代のために、何が何でも今回の復興を成し遂げねばならん。それも皆さんが喜んでいただけるような形で成し遂げなければならんというふうに思っています。

実は、私の尊敬する政治家の一人に大平正芳という方がいらっしゃいます。御存じであろうかと思いますが、元総理であります。総理任期途中で亡くなられた方です。直接私が若いころにお会いしたこともあります。この方の座右の銘が「Eternal Now 永遠の今」ということです。これはどういうことかと申しますと、もともと大平総理はクリスチャンであります。神学者のポール・ティトリッヒという方の言葉だそうです。その意味は、「全ては今という瞬間につくられる。過去の歴史も今という時間の連続の中での積み重ねである。未来は、今という時間が連続することでつくり上げられていく」ということのようにあります。

私たちは将来のために向かって、今を大事に、そして今を精いっぱい与えられた仕事をやっていきたいというふうに思っております。そのことをもって、柴山議員の質問に対する私の答弁と、回答とさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） なぜ今回このような質問をしたかと言いますと、至るところで、もしかしたらこの大変さに耐えきれず、市長は次の市長選に立たないのではないかという言葉が私に返ってくるので、私は言いました。「何がこの5カ月の経験が無駄にして市長職をほっぽり出さないか。そげな責任のない市長じゃねえ。絶対立つけん、今度私が聞いてみる」って、きょうの一般質問です。私は、きょうの打ち合わせのときに、職員の皆さんに言いました。「もし万が一、市長が市長選に立たないなれば、その場でこの一般質問は終わります」石井課長が、「本当ですか」と言いました。本当です。でも、よかったです。なぜならば、選挙など考えとる暇はないのです。5年間のうちに何とかしてやり遂げなければなりません。市長、どうか頑張ってください。

さあ、本来の私の一般質問にまいります。

7月5日、豪雨災害、佐田川、小石原川の治水対策、避難訓練、コミュニティの重要性について質問します。何で一遍に聞いたかちゅうと、職員の皆さんが、私はあれ言うたりこれ言うたりするけん、どこが答えてええかわからんけん、一緒たくりにいたしました。私がどんな質問をしても、必ずその課は答えてください。お願いします。

行きますよ。今回の豪雨災害におけるダム働きについて、短くお願いします。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 御質問の今回の豪雨災害に対するダムの果たした役割については、寺内ダムにおきましては、7月9日に水機構筑後川局と国交省筑後川河川事務所は、寺内ダムの防災操作の効果についてという記者発表を行っておられます。その中で、ダムへの流入量は計画洪水量毎秒300立米に対して今回流入したものは毎秒888立米であったそうです。そのときダムはその流入の99%に当たる878立米の水をダムに貯留し、下流の推移を低減したということでございます。

これは、5月から少雨傾向が続いたためにダムの貯水位が平常時に比べ約10メートル低

かったこともございます。洪水調整容量に加え、このあき容量を活用できたから可能だった対応でございました。もしダムがなかった場合には、下流域での堤防決壊の可能性もあったと考えられるようでございます。

それから、江川ダムにつきましても、常時満水の225メートルより12メートル低かったため、670万立米のそのほとんどを貯留したと聞いております。あわせて、土砂、流木等もダムで受けとめたということでございます。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） びっくりしました。流木ちゅうのは流れるかと思うたら立っちょりましたよね、ダムじゃ。あれはやはり下が重たくて、木がまるで生えているように、ダムの中にいっぱい立って、どうしたものかと思ってびっくりしました。何で私がダム管理局にお礼を言うたかと思ったら、あそこで持ちこたえてくれるからです。よう頑張ってくれたと、私は非常に感謝をいたしました。あのとき、三奈木川、佐田川では満水やったらどんぐらいの水が流れたか。そのとき、立石、甘木における浸水被害や家屋の流失はどんぐらいじゃったか大体わかりますか。

○議長（中島秀樹君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上 浩君） 被害については検証しておりませんので、わかりません。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 立派な答えです。だから、次回からは、災害があるたんび、どんなふうになるかを検証することが大事です。これは富田君も言うておられました。

いいですか、朝倉市洪水ハザードマップ、これです。市長、みんなしっかり見て知っちゃうでしょう。これ昭和28年、多分あの筑後川の大洪水のときのを基本にして書かれたと思います。言いました。あら、これ黒川は流れちょらん。これを見て、したら、筑後川が氾濫したっちゃけん、こんときは黒川は流れちょらんけん、このハザードマップには反映されちょらんちゃねえなち言われました。これには150年に1回程度起こる大雨、想定雨量48時間521ミリが降ったことにより筑後川、佐田川、小石原川が氾濫した場合を想定し、浸水する範囲と浸水の深さ、避難所を示したマップです。

ところが今回、寺内ダムの管理所では、14時20分から15時20分の1時間、日本観測第1位の169ミリの雨が降ったそうです。11時間に500ミリ、黒川では800ミリを観測し、大災害となったこのダムが満水であつたら、さっき検証しちょらんち言いなつたばつてん、佐田川、小石原川、それぐらいの災害が発生したのか、とても何ちゅうていいかわからんやつた。

そこを受けて、検証せないかんですよ、いいですね。検証をして、新しい発想でのまちづくりをせないかんと私は思うとります。

もういっちょ聞きたいことがある。防災課はどんなふう思うちよりますか。

○議長（中島秀樹君） 防災交通課長。

○防災交通課長（草場千里君） 今回のような雨になった場合、ダムでもし受けられなかった場合の被害の状況でございますけども。（発言する者あり）

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 部長に聞きよります。防災課が大事ですか。そういうこと、防災課はどういう位置づけに大事ですかを聞いております。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 防災につきましては、日ごろから防災に備えると、万が一、災害が発生したときには、災害対応を迅速に行うと、そういう位置づけだと思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 当たり前前の答えです、当たり前。なら言うばい。何であそこの1階にあると、防災課は。別館の1階。何か知らんぼってん、倉庫んごとあるところを抜けて、左に曲がって防災課がある。漁師は天気を見て、雲を見て、その日に漁に出るかどうかを考える。防災課が雲も見えんごとあるあんな穴倉んごとあるところにおいて、防災の力がつきますか。きょうは雲が流れ、言います、北野に住んじよる人が。たまがったち。朝倉のほうに雲がどんどん流れていって、どげな雨が降るっちゃろかち思うたつばいち。うちの防災課はどんどん雲が来て、雨がじゃんじゃん降ってもまだわからんぐらいのところにおるんじゃないですか、お尋ねします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 防災交通課の場所は本庁施設から離れたところにありますが、それはそれなりの意味合いがございまして、防災関係者の出入りがしやすいというような

意味合いもございまして。たくさんの物資等を保管できるといったぐあいもございまして。それから、耐震性があるところもございまして。

そういった意味合いもありますけれども、防災課といたしましては、さまざまな災害情報を取り入れる必要がありまして、決して外ばっかしを見ているというわけではございませんで、外を見ることも大切だと思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） よかこつを言うた。それは当たり前んこつ。外ばっかり見よったら仕事はできんめえもん。ぼってんが、体で危ないちゅうのを感知せないかんとよ。これは危なかりうちゅうのを。

うちは田んぼから1メートルぐらい上がったところに事務所があります。堤の用水路の水があふれて、田んぼの水が満水になって、うちのほうにじゃんじゃん流れてきて、うちの横は水がじゃんじゃん流れて、誰も気がつきませんでした。雨が降りよるなぐらいのこと。ひよっと外に出たら、水が向こうからうちのほうに向かって逆流しよる。向こうは通

行どめになっちよる。坊主橋の池、ひょうたん池、あそこは水ががんがんあふれよる。

いいですか、そんなことになる前に、防災課はぴんと来る感性が必要、それをするためにも、天気はすぐに把握できるような、そういうところを考えていただきたい。

これまで朝倉市は非常に災害の少ない、5年前にはありましたが、少ないまちでした。だから、防災に関して、あんまり力が入らなかったのではないですか。そこに防災課のあそこがあるんじゃないでしょうか、違いますか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 防災交通課の場所につきましては、先ほど申しました、それなりに意味合いがございまして、防災の機能が弱いというようなことは決してないというふうに思っております。やはり、場所がどこであれ、防災の朝倉市の中での占める割合、位置づけというものは非常に高いものがあると思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 私はそれも大事ばってん、感性も磨かないかんち言いようによ、わかるかな。漁師が曇っちよる中に海に出ていって、魚をとるね、嵐の中に出ていって魚をとるね。そんなことはせんやろう。今でもいろんな機器があって、漁師はそれを駆使して漁に出るけれど、やはり雲を見て、きょうの天気は危ないというようなことで海には出るでしょう。防災課はそれくらいのことをしないかと私は思う。それに続けて思うんだけど、さっき富田君も言ったけど、情報を読み取れる、把握できる、そんな市役所でないといかんちゆうた。私は、防災課は、雨が降ったら、どんくらい災害が起こるとやろうかちゆう実習や勉強をもっとせないかん。天気を見ることもそう。そういうことを思いますので、どんなふうを考えてあるかをお尋ねします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 防災課の職員は、気象とかさまざまな災害について非常に憶病であるべきだというふうに思っております。いつもぴりぴり感じるなり、少しでも何か変動があった場合には、すぐ対応はどうしなければいけないだろうかということを見ると、そういった職員でありたいと思っておるところでございます。

実際の災害が起こったときにはもちろん対応するんですけども、常日ごろから、先ほど言われました実習なり、研修なり、講習、それを真剣に受けていくというような、常日ごろの姿勢というものを大事にしたいと、そういうところだと思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） まさにそのとおりです。今後、頑張って、そういう教育に力を入れてください。

それから、この災害の少ないちゆうまちという思いから、避難訓練や防災教室等の実施に力が入らなかったっちなかろうかなち私は思っております。

今後、例えば7月5日を豪雨災害の日として、一斉に全域挙げた訓練をし、自分の命は

自分でどう守るかの行動の意識づけが大事だと思いますが、どう考えられますか。これはぜひやっていただきたい、7月5日。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（森田俊介君） そういう制定については、私のほうから答弁させていただきます。

今、柴山議員から7月5日を何か形にして、私も全く同感であります。私が7月5日に、来年の7月5日市長を務めておるかどうかは別として、やはり7月5日を朝倉市の防災の日と、これは議会の皆さん方の御賛同が要することですけども、決めて、その日に、もちろん亡くなった方の冥福を祈るとともに、各地区で防災を考えていただく、あるいは訓練をする、そういった日にした方がいいんじゃないかなということは、私も前々から考えておったことでありますので、同感であります。以上です。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） よかったです。何としても避難訓練をしなくてはと思っておりましたので、うれしいです。

日本中を驚かした異常洪水、線状降水帯による雨の降り方を経験した私たちこそが、この浸水や朝倉の地形を考えた新発想の洪水計画や避難計画を立て、災害に立ち向かうまちづくりを検討すべきと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） そのとおりだと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） じゃ、コミュニティをつくった理由についてお尋ねします。簡単をお願いします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 今、地域社会では、人と人とのつながりが希薄化されていると言われておるところでございます。昔であれば隣近所の助け合いで支え合っていたという生活も時代とともに変化しているという状況でございます。防犯防災、環境問題、子育て、高齢者問題など、個人や隣近所、さらには1つの行政区の力では解決できない問題というものがふえているという状況でございます。こうした厳しい状況を乗り越え、元気なまちをつかっていくためには、地域コミュニティを支える住民、企業、行政等が力を合わせ、自発的にさまざまな地域課題に取り組み、解決していくことが重要と考えております。

こういった問題、課題につきまして、同じ地域の人たちが自分たちの問題として共有し、力を合わせて解決していくことが求められていると考えております。

これからのまちづくりにつきましては、従来の行政主導型というものではなくて、住民みずからが自主的な活動を展開する住民主体のまちづくりへ転換することが求められていると考えておるところでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君）　そうですね、地域のことは地域で解決できるよう、自助、共助に力を入れ、自主活動を進め、自治体ができない地域の細やかな対応をするためにあるのですね。

それではお尋ねします。何でかちゅうと、地域が活発に活動するためには、情報の共有が大事です。災害時、杷木地域放送、戸別無線、光ケーブルの有効性と問題点についてお尋ねします。

○議長（中島秀樹君）　総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君）　光ケーブルにつきましては、多量の情報量を配信することができるといった有効なものがあります。杷木の地域放送に限っていいましても、情報を伝達する場合において無線を一部使っておりますので、配線をする必要がないといったメリットがあると思っております。

ただし、今回の災害で思いましたところは、1度の場所から全部のところに無線が届くわけではございませんので、基地局と支局といいますか、そういうようなものを置かなければいけない。一部のところでは、その支局が電源を失ったりとか、その飛ばす支局のアンテナ台が流されてしまったというようなことがございました。

ですから、無線といえはすぐいいというふうに考えがちですけれども、そういった電源といったものも課題であったというのがちょっとあぶり出されてきたということが見えてまいりました。

○議長（中島秀樹君）　11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君）　それでは、戸別無線、光ケーブルは役に立たなかったということですか。

○議長（中島秀樹君）　総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君）　いえ、そういうわけではございません。それまで地域放送につきましては、ほとんどのところで機能しておりまして、こういった災害情報等につきましては、ほとんどといいますか、多くのところについては届いておったと思っておりますので、それは有効であったと思っております。

○議長（中島秀樹君）　11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君）　本当であれば、さっき午前中に市長が言われたように、携帯電話とかの洪水情報とか地域放送を携帯とかスマホとかに直接流して、住民の皆様がきちっと把握して逃げたり、何か地域の行事などにも参加するようになれば一番いいのですが、まだまだそんなことはでき上がっておりません。ということは、有線放送なり戸別無線で地域の行事や、それから災害情報は流すしか手がないんですね、違いますか。2つやろう、今。有線放送と無線。

○議長（中島秀樹君）　柴山議員、コミュニティをつくった理由と有線放送、それから戸別無線、これの関係をもっと整理して、あんまりそれないようお願いします。

○11番（柴山恭子君） これは決してそれておりません。なぜかという、コミュニティがとても活性化するためには情報を使途します。例えば、立石に有線放送で流してくださいという地域からの要請がありました。立石には有線放送はありません。そうすると回覧板で流します。回覧板がどれほどの情報が流れるでしょうか。これが私が言う、戸別無線の話です。議長、わかりましたか。

○議長（中島秀樹君） 柴山議員、私に質問はお控えください。

11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 住民の情報伝達方法がないということは、とてもつらいことです。雨のとき、立石には避難指示が出たんです。しかし、屋外無線の音が聞こえて、連絡もつかなかった。だからコミュニティはわからなかった。何でわかったかちゅうと、テレビ局から、立石には避難指示が出とりますが、洪水は地域の状況はどんなふうですかというような問い合わせがテレビ局からあったそうです。そのとき初めてコミュニティの事務局は、避難所、避難が出ると。何とかせないかんちゅうのを思ったそうです。

また、市役所に電話をしたら、パニックで、電話は通じなかったそうです。こういうときに、役所との連携はどうやってとるのがえらい難しいところです。どうやってとったらよかったですか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 先ほどの7月5日の状況でございましたけれども、この私どもは14時ぐらいに避難勧告を全市に対して出しております。避難勧告を出したということは、避難所の開設もしたということでございます。そういった情報につきましては、全コミュニティに直ちに連絡する必要があると、そういう防災上の情報につきましては、コミュニティに連絡することが必要だということで、私どもといたしましては、防災ではございませんで、コミュニティを担当しておりますふるさと課が役割を分担いたしまして、避難所開設につきましては避難所開設の指示を各コミュニティに連絡をしております。その当日についても連絡したということでございますので、どうやって連絡するか、特にこういった災害のときどうするかということにつきましては、先ほど言いました違う部署によって防災情報をやりとりするというような方法が現実的かなと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 立石は避難所として開設しませんでした。開設しようか、逃げてこられた方があったんです。だから、開設しようかということをしたら、開設はしません。ピーポートのほうにちゅう指示があったそうです。あのときはじゃんじゃん水が来て、立石に来た人、ピーポートまで送り出すのが果たしてよかったことでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 当時、避難所につきましては、きちんと市の職員が対応するというようなこれまでの仕組みがございましたので、避難所については職員が対応したと

ころについて避難所を開設したということですが、それは時と状況によるものでございまして、本当に危険があるということにつきましては、やはり近くの安全なところに避難するということが大事だろうと思っております。

ですから、避難所といいますものは、そういう市が管理する、市の職員がおるというところだけではございませんということを念を押しておきたいと思っております。あのときに避難所に避難できたかどうかということですが、私どもが14時過ぎに避難勧告を出しておりますけれども、本来、避難勧告、避難指示もそうなんですけれども、身の安全を図ることが大事ですけれども、避難をするということと、状況によっては自分の、例えば2階におるとか、安全なところに行くというようなものが勧告なり指示の中に住民の取る行動として示されているところでございます。そういった訓練を通して等になるのかと思っておりますけれども、住民の一人一人の行動も大事になってくるというふうに考えます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） コミュニティが避難所として開設していなくても、コミュニティの判断で避難してきた人を受け入れてもいいということですか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） いいと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） はい、わかりました。じゃ、そういうふうにコミュニティで話し合ってみます。

私が今度、この一般質問をするに当たり、水の勉強をさせていただきました。そうしなければ、私はこの一般質問をすることができませんでした。これは、私はもう、議員全員が全協終了後に、恒吉さんに多くの資料の提供を受け、勉強会をしております。そして、もう一人、立石には石坂さんという方が、ダム関係の方がおられます。私はこの石坂ノートとして、2冊の資料を石坂さんからいただきました。この石坂ノートで勉強をさせていただき、きょうの一般質問をすることにしたのですが、蜷城では災害対策室があるそうです。避難指示が出たこともあり、蜷城では事務局が地域を守り、筑後川からの流入がないことを確認し、想定外の上流からの浸水だったので、対応が難しかった。役員たちを集め、災害対応をされたそうです。これは多分、消防出身の羽野さんがいらしたから、こういう対応ができたのだと思われま。

各コミュニティには、それぞれ優秀な方がいらっしゃいます。この朝倉市は3つ目のダムができようとしています。だから、ダムで働いた人たちが、朝倉の私みたいなすばらしい女性を奥さんにして、そして朝倉に住んでおられます。どうか、その方々を十分に活用して、コミュニティの防災に力を入れるべきではないですか、どう思われます、課長でいい。ふるさと課課長。

○議長（中島秀樹君） ふるさと課課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） 私も蜷城出身です。私どもも、災害があったときには、仕事をしておりましたので、ちょっと蜷城のほうには携わっておりません。ただ、地域の蜷城に帰ってきたときに、確かに今、コミュニティ事務局長は羽野さんです。羽野さんにマップ、ハザードマップ、それをもう一度見直さないかと、マップをつくり直そうと。それも、普通の人聞いてわかるようなマップ、じいちゃん、ばあちゃん、子ども、中学生たちが見えるような、ここは危ないよって、ここにいたらだめだよというふうなマップをつくり上げて、ことしもう一度検討しないかということをおっしゃっています。これは、私が平成24年に水害があって、そのときに杷木の災害があったときにボランティアに行こうとしたところ、朝5時ごろから川の水がジャアジャアあふれて、桂川があふれて、うちの家は沈んでおりました。そのときに、近所のおじちゃんたちが車で逃げようとしたところ、溝にはまったので、たまたまうちに全部子どもたちもおりましたので、引き上げようとしたところ、隣のおじさんが、あのねって、太ももの真ん中に水が来たら足がとられるから帰りなさいと、そういうことを言われました。ああ、そうなんだと。今度また平成29年、また災害に遭いました。こういう自分が得た情報をもちょっとわかりやすいように、みんなが見て、ここが危険だな、ここは、こういうところに逃げたほうがいいなというマップをつくろうと思っております。これは私も一緒に参加をしてつくり上げようと思っております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） コミュニティの防災の充実ということでもありますけれども、先ほど、どこのコミュニティ施設を避難所としてというような発言の中で、漏れがありましたので追加させていただきます。

災害の種類によります。どこでもここでも、例えば土砂災害のところにあるコミュニティ施設のところを避難所として設けていいかということ、そうではありませんので、災害の種類によってということをつけ加えさせていただきます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） まさにそうです。もしあのダムが満水で、水をじゃんじゃん流したら、立石コミュニティはもしかしたら水につかっとなったかもしれません。だから、どこを避難所にするかは非常に難しいことだと思います。

立石にも自主防災マップがあります。立石コミュニティは、これに被災したところの住所、名前、どんな被災であったか、そして、赤い点々で、こういうところは床上浸水、床下浸水という防災マップをつくっております。立石でも、これもっとわかりやすい、年寄りにも、それから私たちに、私もちょっとようつとわからんとけど、立石コミュニティちゅうのは書いてあるけん、ここが立石コミュニティだなと思ってさぐっていきますが、もっとわかりやすい、今度の災害を経験して、もっといいものをつくり上げたいと言っておりました。どうか、コミュニティの力を充実するためには、市ももっと協力してほしい、

そこが言いたかったと。そして、情報を誰にでも伝えられるよう、そこでまた無線が出てきますが、有線放送のない立石としては、何とか情報手段を確保したいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

これをもって私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後3時11分休憩